



気象や防災に関する講演会に招かれると、最後に質問を受けることが多い。降雪量や台風など気象関係の質問は多いが、防災については少ない。市民の関心度がより高いのは気象分野のようだ。

質問の中で、とても説明しづらいのが「降水確率」についてである。気象庁の解説を要約すると、「予報区域内で一定の時間内に降水量で1ミリ以上の雨または雪の降る確率」となる。

例えば降水確率30%とは、30%という予報が100回発表されたうちの30回程度は降水があるという意味だ。降水量や強さの予報ではない。ここで1ミリ以上としたのは、

今月のお題
降水確率予報

1ミリ程度までの雨なら、傘を持つていない人が我慢できるだろうと判断したから」と言われている。

確率は0%から100%まで10%刻みの11段階。発表時刻は天気予報と同じ5時、11時、17時の1日3回で、6時間刻み。降水の内容は、「雨」「雨または雪」「雪または雨」

「雪」の4種類がある。分かるような分からないような定義だが、発表開始からすでに30年以上たった。

繰り返すが、降水確率は1ミリ以上降る確率のことで、量や強さは関係ない。この点は野球の打率に似ている。100回打って安打(降水)が30本なら打率は3割だが、シン

グルヒット(小雨)も二塁打(大雨)もホームラン(豪雨)も、安打数は1である。一応の目安として、3割打者は好打者と言っていないだろうが、降水確率の目安は利用者の判断に委ねられている。つまり、個人によって使い分けが肝要となる。

では降水確率が何%で雨具

が出された時に70回程度は降っています」という意味だ。降水確率は日本の気象庁のほかに、アメリカ、カナダ、オーストラリア、韓国、ヨーロッパなど先進各国で発表されている。また、日本より細かく10ミリや50ミリなどの基準の降水確率を出している国もあるし、発表時刻の区分もさまざまである。

ある調査によると、日本の首都圏では降水確率30%で約4割の人が折りたたみ傘を持ち、60%なら9割が傘を持ち、多いのもたずける。

市民権を得ている降水確率ではあるが、気象庁は、小学生も理解できる分かりやすい定義に改善してほしい。

(工藤淳、気象予報士・防災士、アップルウェザー社長、青森市在住)

※次回は12月19日に掲載予定。

量や強さは関係なし

「津軽地方の6時～12時の降水確率70%」とは、どんな意味?

- 1.津軽で午前中に4時間くらい雨が降る。止んでいる時間は短い
- 2.津軽の7割程度の地域で雨が降る。雨の降る範囲が広い
- 3.津軽で「30%」の時よりも強い雨が降る。雷が鳴るかも

※正解は本文で解説しています

【ヒント】降水確率は野球の打率と似ています



降水確率
30%以上



打率3割以上

を用意すればいいだろう。ズバリ、50%が目安となるだろう。私の場合は、普段着のときは70%以上で雨具を用意し、スーツに皮靴なら50%で雨傘を持つようにしている。

別表にクイズのような問いと三つの選択肢を載せたが、実はいずれも間違い。正しくは「津軽のどこかで、6～12時の6時間に『1mm以上の雨が降る』と100回同じ予報